

# 継続と変化

## 巻頭言

令和2年度特許庁技術懇話会 代表幹事 稲垣 良一



今年度の特技懇代表幹事を務めております稲垣良一と申します。特技懇誌は、今号で300号を迎えることになりました。この記念すべき節目の号に、僭越ながら一筆寄せさせていただきます。

特技懇誌の歴史を少し振り返ってみます<sup>1)2)</sup>と、「特許庁技術懇話会々報」として昭和33年(1958年)に復刊第1号が発行されました。「復刊」と称しているとおり、同会報の第1号は、昭和25年(1950年)に発行されています。この最初の発行から現在に至るまで約70年、特技懇誌は、戦後の知的財産行政と共に、その歩を進めてきたものといえるのではないのでしょうか。歴代の執筆者、編集者の御尽力、そして、当誌を手にとっていただいている読者の皆様の御支援により築かれてきた歩みを止めることなく、読者のニーズや時事に即した、知的財産に係る情報発信を継続していくことができればと思います。

特技懇誌が300号というマイルストーンに到達する一方で、今年度のその他の当会の活動においては、国内外の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、感染拡大を予防する観点を念頭に進めていくこととなりました。特に、例年、夏季に開催させていただいている当会の懇親会については、残念ながら中止とさせていただきます。懇親会は、特許庁に入庁し、当会に入会いただいた知財行政の未来を担う新入会員の皆様の、会員並びに産業財産権の創出・保護・活用等に携わる来賓の皆様にご紹介させていただく機会であると共に、新入会員の皆様にとっても、普段の業務から離

れた場で先輩会員や来賓の皆様との親睦を深めていただく貴重な機会でもありました。当会では、昨今の状況下において、懇親会に替えて、新入会員の皆様にとって少しでも先輩会員との親睦の機会を提供できないか検討を進め、2020年の年末に少人数での座談会を開催させていただきました。今号ではその模様も紹介しておりますのでご覧いただけますと幸いです。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、働き方を含めた生活様式だけでなく、社会の在り方そのものの変化を、我々がこれまで経験していなかったスピード感で強いているようにも感じています。この一年あまりの間に、これまでの当たり前が通用しないことを数多く体感してきた中で、変化を恐れずいろいろ考えを巡らせてみることに、そして、まずは何事も試してみる、というのが社会の中でより求められていくのではないかと感じています。

今回、開催した座談会も1つの変化の形かもしれないですが、当会の活動においても、会員の皆様の親睦や研さんに資する活動とは何かを常に考えながら、特技懇誌のように継続すべきものは着実に継続しつつ、そして、必要な変化に柔軟に対応しながら取り組んでまいりたいと思います。

最後までお読みいただきありがとうございました。それでは、今号の特技懇誌をお楽しみください。

1) 特技懇誌の歴史, 特技懇, 2008.8.22, No.250, pp.11-21  
2) 「特技懇」誌、60年を振り返る, 特技懇, 2010.11.24, No.259, pp.2-7